

第1回 福知山市雨水管理総合計画の策定に係る懇話会の開催概要

開催日：令和8年2月3日（火）

場 所：上下水道部庁舎3階 301会議室

要旨

近年の気候変動で集中豪雨が頻発化・激甚化により、浸水被害リスクが高まる中、下水道による浸水対策を計画的かつ効率的に進めるため「雨水管理総合計画」の策定を行うにあたり、これまでの調査・浸水シミュレーションの状況、及び「雨水出水浸水想定区域」の指定・公表内容について説明

主な説明内容

（雨水管理総合計画）

- ・ 今後は気候変動により降雨量の増加・激甚化が懸念され、限られた財源の中で優先順位付け（どこから・どの水準まで・いつまでに）が必要である
- ・ 流域治水の考え方のもと、関係機関が協働しつつ、下水道管理者が中心となり計画策定を進める
- ・ 令和5年度から基礎調査を開始し、これまでに対象区域設定の検討、浸水要因分析、地域ごとの浸水シミュレーション、雨水出水浸水想定区域図の作成を進めてきた
- ・ 計画降雨について、ガイドラインに基づき、過去の気象データ（1951-2010）を用いて降雨強度式（計画降雨の算定式）の見直しを行い、気候変動影響として計画降雨に降雨変化倍率（1.1倍）を考慮する
- ・ 浸水シミュレーションについて、事業計画区域（フルモデル）と、それ以外の全体計画区域（簡易モデル）でシミュレーション手法を使い分けて実施

（雨水出水浸水想定区域）

- ・ 水防法の改正に伴い、下水道等の排水施設で雨水を排除できなくなった場合に浸水が想定される区域を、「雨水出水浸水想定区域」として指定・公表
- ・ 想定最大規模降雨に基づくシミュレーション結果を用い、浸水深、浸水が長時間継続するエリアを公表予定
- ・ 区域指定の対象は事業計画区域を基本とし、全体計画区域はリスクの明示に留め、区域指定は行わない

主な意見等（論点）

- 事業計画区域の内外で図示が分かりにくいいため、住民向けには特に分かりやすい表現が必要
- 段階的対策方針の検討時期が遅いため、次回以降の検討に間に合うよう、方針検討を前倒しして整理したほうがよい
- 優先度評価で使用する指標（人口・資産・要配慮者施設等）や重み付けの考え方を、なるべく早く提示して議論したほうが良い
- キャリブレーションについて、将来の対策効果検証では絶対値の精度が重要になるため、継続的にデータを蓄積し精度の向上を行う必要がある
- 「浸水想定区域図」は、「ハザードマップ」と混同されやすいため、今後、既存ハザードマップ等との整合・連携を図る必要がある

今後の予定

- 次回、懇話会の開催は2026年10月ごろを予定